



令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から

4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。6年児童は、国語、算数、理科の答え合わせをし、一人ひとり成果や課題を確認しています。今回は、全国、県との比較を踏まえ、成果のあった問題と課題となる問題について分析した結果をご報告します。また、合わせて行われた児童への質問についても、良かった点と課題となる点について分析しました。

【国語】

(1) 成果

① 一 話し言葉と書き言葉の違いを理解する。

- ・【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する問題について、正答率は、91.7%であった。

① 三 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える。

- ・【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する問題について、正答率は91.7%であった。

(2) 課題

② 二 人物像や物語の全体像を具体的に想像する。

- ・物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】のAに入る内容を書く問題について、正答率は66.7%であった。
- ・10字以上、30字以内で書いているが、森田さんが前向きな気持ちになることをあげていることを踏まえ、この物語から伝わっていることを考えることが出来ない。

③ 二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける。

- ・【伝え合いの様子の一部】を基に【文章2】のよさを書く問題について、正答率は58.3%であった。
(誤答) 【文章2】のよさを書いていない、言葉や文を取り上げていない。
決められた字数で書いていない。

(3) 今後の取組

- 学期に2回は、条件を提示して文を書く学習活動を取り入れる。また、グループ別に友達の記述したものを確認する(条件が揃っているか)場の設定をするなど、条件についての意識付けを図る。
- 「問い」と「答え」が不一致な場合があるため、日常的に「問い」に対する「答え」の書き方を確認する。

【算数】

(1) 成果

- ・「数と計算」の分野の基礎的な四則計算は、定着している。
- ・「データの活用」の分野のデータの読み取りは、ほとんどの児童が習得している。

(2) 課題

① (4) 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。(第4学年A 数と計算) 正答率 50%

(誤答の理由) 85と21の数の処理の仕方が間違っている。(四捨五入をして計算している)

② (3) 果汁が30%含まれている飲み物の果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く。(第5学年C 変化と関係) 正答率 25%

(誤答の理由) 果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けたとき、飲み物の量は2分の1になるが、同様に果汁の割合も2分の1になると誤って捉えている。

(3) 今後の取組

- 授業において、いくつか分、テープ図、線分図、数直線図、関係図など、式と関係づけながら丁寧に指導する。
- 低学年から倍概念の学習を徹底し、学力向上タイムには、倍概念の関係プリントに取り組みさせる。(例)「どちらが長い」「かけ算・わり算」「単位量あたりの大きさ」「百分率とグラフ」など
- 低学年から、実生活に関連付けて指導する。

【理科】

(1) 成果

- ・**1**の「生命に関する問題」について正答率が高かった。昆虫の体のつくりや環境による育ちなど、観察・実験に関する技能が身につけている。

(2) 課題

- ・**3**の「エネルギーに関する問題」について課題が見られた。

(1) 鏡を操作して反射させた日光がどのように進むかを考える。 正答率 41.7%
 (誤答の理由) 段ボールと的の位置と光の進み方の関係を理解していない。

(3) 缶の色と時間の関係による温度変化のわけを考える。 正答率 50%
 (誤答の理由) 何を比較して温度が違っているのか、比較した事象が書かれていない。

(3) 今後の取組

- 理科で用いる学習用語や実験器具の名称を意識させ、日頃から学習中やまとめ、振り返りで使用する。

全教科での今後の取り組み

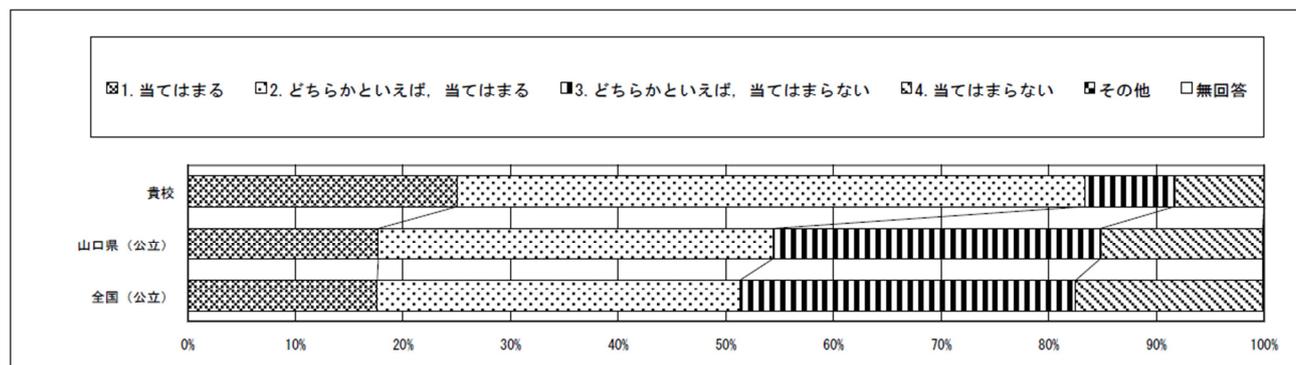
- 問題文を正確に読み取る習慣を付ける。
- やまぐち学習支援プログラムのプリントを活用する。(朝学、学力向上タイム、宿題等)

【児童質問紙】

(1) 成果

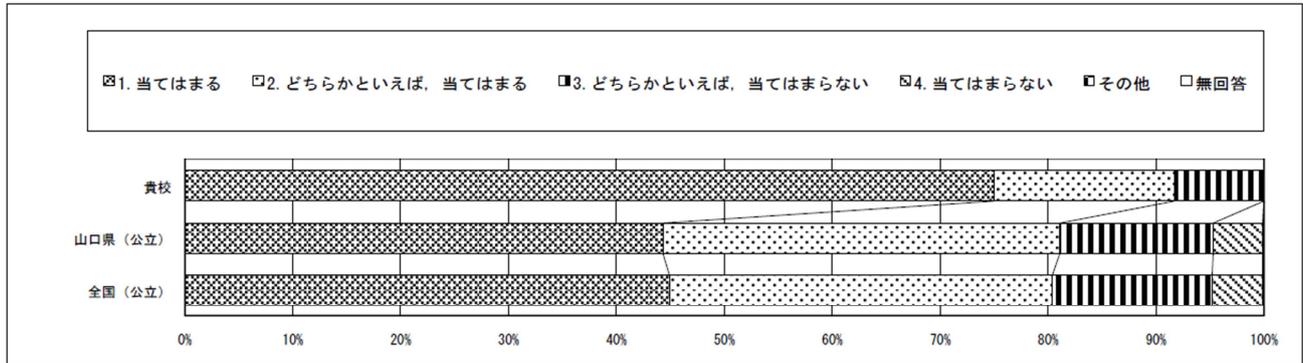
①社会の役に立ちたいと考えている児童が多い。

質問番号	質問事項										
	(30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	25.0	58.3	8.3	8.3						0.0	0.0
山口県(公立)	17.7	36.7	30.4	15.1						0.0	0.1
全国(公立)	17.6	33.7	31.2	17.4						0.0	0.1



②何事にもあきらめずに、粘り強く取り組もうとする児童が多い。

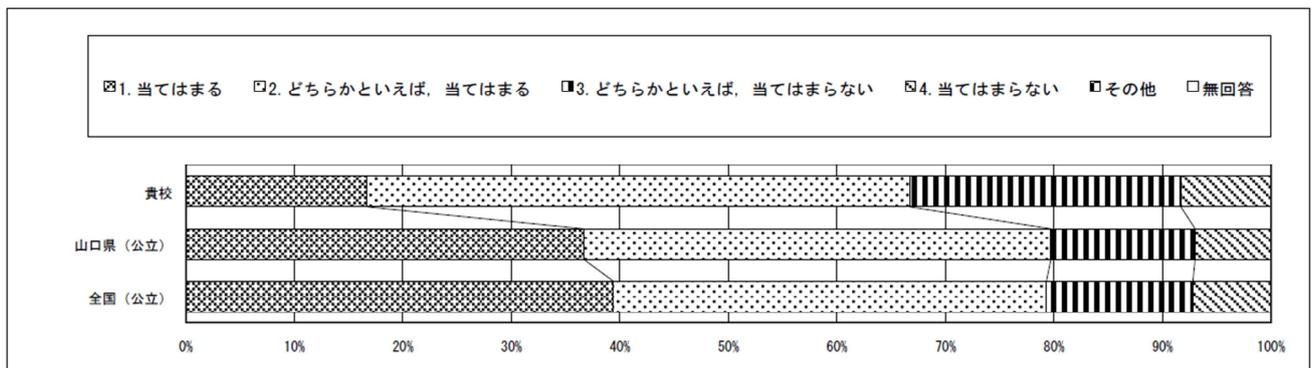
質問番号	質問事項										
(58)	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	75.0	16.7	8.3	0.0						0.0	0.0
山口県(公立)	44.3	36.8	14.2	4.6						0.0	0.1
全国(公立)	44.9	35.5	14.8	4.7						0.0	0.1



(2) 課題

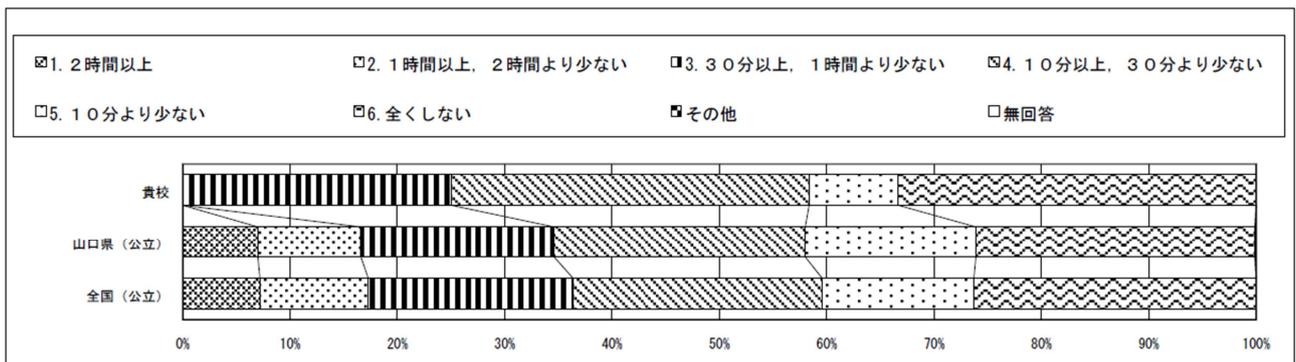
①自分のよさを理解していない。(自己肯定感が低い)

質問番号	質問事項										
(7)	自分には、よいところがあると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	16.7	50.0	25.0	8.3						0.0	0.0
山口県(公立)	36.7	43.1	13.3	7.0						0.0	0.0
全国(公立)	39.4	39.9	13.5	7.2						0.0	0.0



②読書への関心が低い。

質問番号	質問事項										
(23)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	0.0	0.0	25.0	33.3	8.3	33.3				0.0	0.0
山口県(公立)	7.0	9.6	18.0	23.4	15.9	26.0				0.0	0.1
全国(公立)	7.2	10.1	19.1	23.2	14.1	26.3				0.0	0.0



(3) 考察

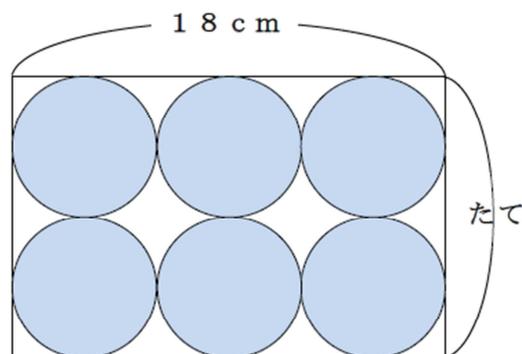
- 「社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた児童が80%以上ということは、地域連携教育や小中一貫教育の成果が子どもたちの社会貢献への態度に表れていると考えられる。今後も、地域連携を推進し、社会のためにできることを考え、実践できる子どもたちを育てていきたい。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた児童が90%以上という結果が出た。何事にもあきらめずに挑戦しようという、年間統一テーマを意識した学校生活が送られていることがこの結果につながっていると考えられる。
- 「自分に良いところがあると思う」と答えた児童が70%以下と、全国平均に比べ低い。役割を与えたり、学習で活躍できる場や一人ひとりを認める場を設定したりすることで、自己肯定感を高めていくことが大切である。
- 読書に関する課題は、国語の問題を解く時間にも影響している。「国語の回答時間は十分だったか」を問う質問では、「時間が足りなかった」が全国平均で35%弱に対し、本校では80%以上であった。これは、日頃から文章を読むことに慣れておらず、読んで内容を理解することに時間がかかったと考えられる。また、「読書が好きである」がちょうど50%で、残りの50%はあまり好きではない、好きではない、という結果が出ている。今後、読書に慣れさせるための手立てを講じる必要がある。読書活動についての課題を洗い出し、見直しを図っていききたい。



やまぐち学習支援プログラムの問題から

これは、「やまぐち学習支援プログラム」の3年生の問題です。式と答えを求めるだけでなく、言葉を使って説明する力が問われます。子どもたちは、日々、このような問題に取り組むことで思考力や表現力を身に付けています。答えはすぐに出ると思いますが、求め方を説明することが重要です。3年生以上なら解けるとおもいますので、ぜひ一緒に挑戦してみてください。

- 2 下の図のように、同じ大きさのボールがはこにぴったり入っています。このはこの、たての長さを式と言葉を使って求めましょう。



c m